

2021年度図書館研究奨励賞報告

図書館研究奨励賞選考委員会

2021年度32回目を迎えた図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長の基金によって、若手あるいは中堅の書き手の方に差し上げる賞です。2021年度における選考の対象は、『図書館界』に過去2年間、2019年11月号(71巻4号)から2021年9月号(73巻3号)に掲載された「論文」、「現場からの提言」と「研究ノート」(2021年度から)です。その中から優秀作を選びます。受賞者には、表彰状と、副賞の賞金が贈られます。

この賞の特徴は、選考委員会と会員の皆さまのご協力によって決めることになっています。そのため、昨年『図書館界』5月号に、奨励賞のご理解と会員の皆さまからの自薦、他薦をお願いし、11月号には自薦・他薦を12月20日(月)の締め切りまでにおよせ頂きたいと掲載しました。しかし、残念ながら本年度は、会員からのご推薦がございました。

この賞の選考委員会は、5名で構成されています。昨年の6月に構成し、理事会の承認を得ました。今年度選考委員会メンバーは、外部選考委員として國學院大学の須永和之様をお願いしました。その結果、選考委員は、須永様のほか、監事の志保田務様、理事の嶋田学様、そして、奨励賞担当理事の常世田良と前川和子の計5名で選考を行いました。

そして、選考事務は、次のように行いました。

今年度選考対象となるものは、『界』特集号を除き、研究歴のあるベテランの方などを除き、選考時会員で無い方なども除きます。その結果、今年度は3本が対象作となりました(昨年度は4本が対象作でした)。研究歴のあるベテランの方というのは、例えば論文の最後に「謝辞」にお名前が掲載されている方や名誉教授の方です。また、ある程度の年齢で、正規の教員などの地位にいらっしゃる方などを除きました。

各選考委員は、1月15日に、本年度対象についての評価を研究奨励賞担当の2名に提出し、そのあとメール上で奨励賞に相応しいかどうかを議論致しました。なお、「現場からの提言」と今年度からの「研究ノート」は、本年度対象にはなりません。

そして、1月30日の第6回理事会に選考委員会の

総意を提出し、承認されました。

2021年度の研究奨励賞佳作

『図書館界』72(5)に掲載された 能勢美紀氏の(論文)「所蔵マイクロフィルムの状況把握と保存計画：アジア経済研究所図書館の事例」に研究奨励賞佳作を差し上げることに決定致しました。能勢氏は、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館に勤務されています。

能勢美紀氏の論文は、勤務されている図書館が所蔵している、大量のマイクロフィルムを対象にしたものです。1959年設立以来、現在88,200リール以上所蔵されています。

従来1次資料を長期に保存をする際に、マイクロフィルムかデジタルか、どちらかで保存するのをよしとしてきました。デジタルについては、記録媒体の劣化や記録情報の改竄、消失の可能性等が指摘されており、マイクロ資料がまだ、ただちにデジタルに置き換わる状況ではありません。しかしながら、マイクロ資料の場合、保存媒体の劣化は避けられない問題であります。

この論文は、マイクロ資料の保存の信頼性に、一石を投じており、マイクロフィルムを所蔵している機関への警鐘としての意義が認められます。

また、本論文の大きな貢献は、これまでの理論では、必ずしも適切な保存が出来ないことを、調査や実践事例を用いて明らかにしたことであり、同時に、保存状況の調査方法についても、速やかな対策を進める立場から、その簡略化を提案している点であります。また、この論文は、日本図書館協会の『資料保存の調査と計画』や、東京大学経済学部資料室『マイクロフィルム状態調査報告書』の有効性が、アジア経済研究所図書館での調査と復元保護作業によって実際に裏付けられた点も重要といえます。

論文そのものを見ますと、グラフが用いられ叙述が明快であります。

ただし選考委員から次のような様々な指摘もありました。近來の(実験体の)論文には多いのですが、当論文は業務報告の類のように記述用語も

個人でなく団体主語, 「当館」など, となっています。マイクロフィルムが利用されるのが, 国立国会図書館, 大学図書館, 専門図書館なので, この論文の成果が汎用性に乏しいといえるのではないか。デジタル化が進む過程で, マイクロフィルムの需要が漸次的に減衰すると思われるので, 論文の叙述の明快さとは別に, 奨励賞の対象とするにはどうか。などです。

しかしながら, アジア経済研究所図書館でのマイクロフィルム保存について, 必ずしも対応が適切でなかったという, 公表を躊躇われる内容を, 記述されたことは大変参考になるものです。

単なる業務報告の域を超えた, 実用的価値を有するといえましょう。

能勢氏の論文は, 今後この分野における, 重要な論文となると評価しまして, 本年度の研究奨励賞佳作の授賞者と致しました。

(2021年度, 日本図書館研究会図書館奨励賞選考委員会:
委員長・前川和子, 担当理事・常世田良)